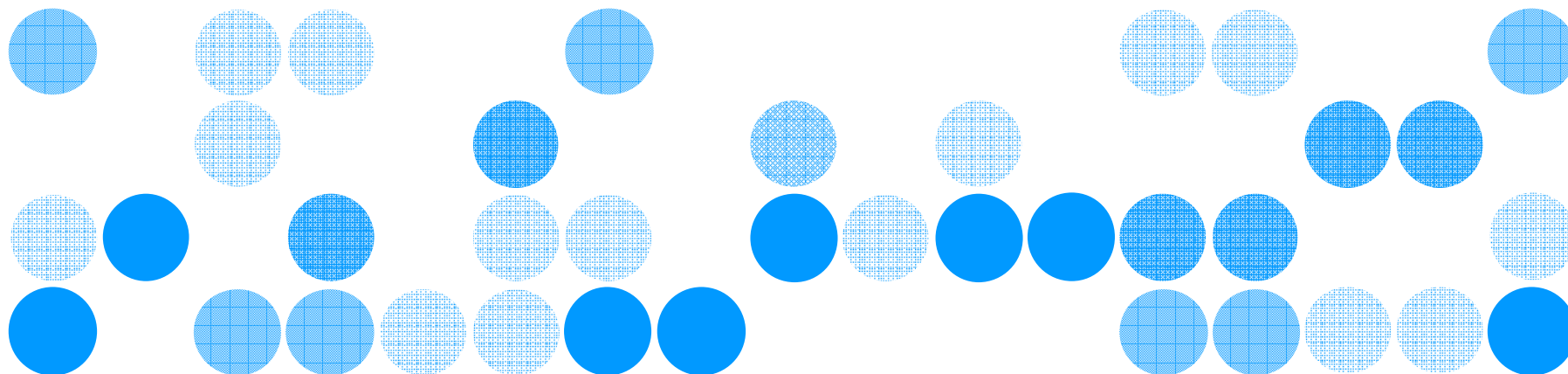

OMRON

Sensing tomorrow™

平成23年(2011年)3月期 決算説明会

センシング&コントロール技術で「安心をカタチに」

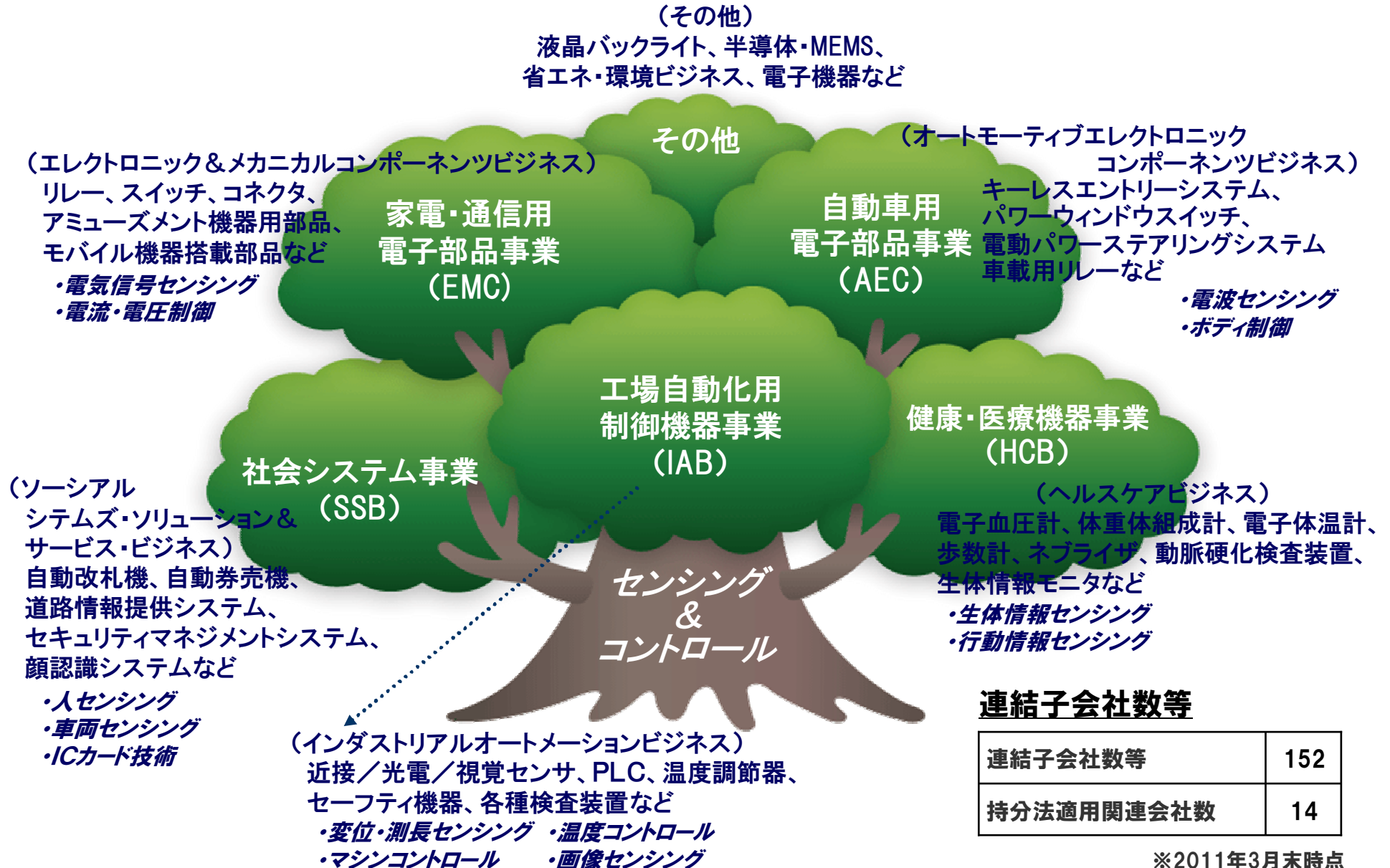


2011年4月28日

オムロン株式会社

**この度の東日本大地震により被災された皆様に、
心よりお見舞い申し上げます。**

**皆様の安全と一日も早い復旧を心よりお祈りするとともに
オムロングループは、社会の公器として全力を挙げて
支援してまいります。**



連結子会社数等

連結子会社数等	152
持分法適用関連会社数	14

※2011年3月末時点

当期決算と次期見通しのポイント	P.5
2011年3月期決算報告	P.7
東日本大震災の影響と2012年3月期の見通し	P.30
ご参考資料	P.37

<注意事項>

1. 当社の連結決算は米国会計基準を採用しています。
2. 業績見通し等は、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等はさまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なることがあります。実際の業績等に影響と与える重要な要因には、(i)当社の事業領域を取り巻く日本および海外の経済情勢、(ii)当社製品・サービスに対する需要動向、(iii)新技術開発・新商品開発における当社グループの能力、(iv)資金調達環境の大幅な変動、(v)他社との提携・協力関係、(vi)為替・株式市場の動向、(vii)事故・震災などがあります。なお、業績に影響を与える要因はこれらに限定されるものではありません。

当期決算と次期業績見通しのポイント

■2011年3月期(当期) 決算とポイント

- 売上、利益ともに前年比大幅増(売上高 約1.2倍、営業利益 約3.7倍)
- 震災の影響は若干あるものの、売上・営業利益ともにほぼ3Q時点での公表見通し通り
- 特に主力の工場自動化用制御機器事業(IAB)、家電・通信用電子部品事業(EMC)、自動車用電子部品事業(AEC)で国内、海外ともに年間を通じて好調に推移
- さらに固定費の効率的運用により営業利益率も改善(2.5% → 7.8%に向上)

(億円)

	2010年3月期	2011年3月期	前期比	前回見通し (2011年1月28日)	前回見通し比
売上高	5,247	6,178	+17.7%	6,200	△0.4%
営業利益	131	480	+267.4%	490	△2.0%
当期純利益	35	268	+661.3%	300	△10.7%

※為替レート実績 USD・・・85.8円、EUR・・・113.5円 (前年同期実績 USD・・・92.9円、EUR・・・130.3円)

■2012年3月期(次期) 業績見通しとポイント

- 震災の影響により第2四半期累計期間、通期ともに見通しを算定できないため未定
- 第1四半期の売上高は、震災影響による需要減や為替影響もあり、全社で前年同期比1.3%の減少を見込む

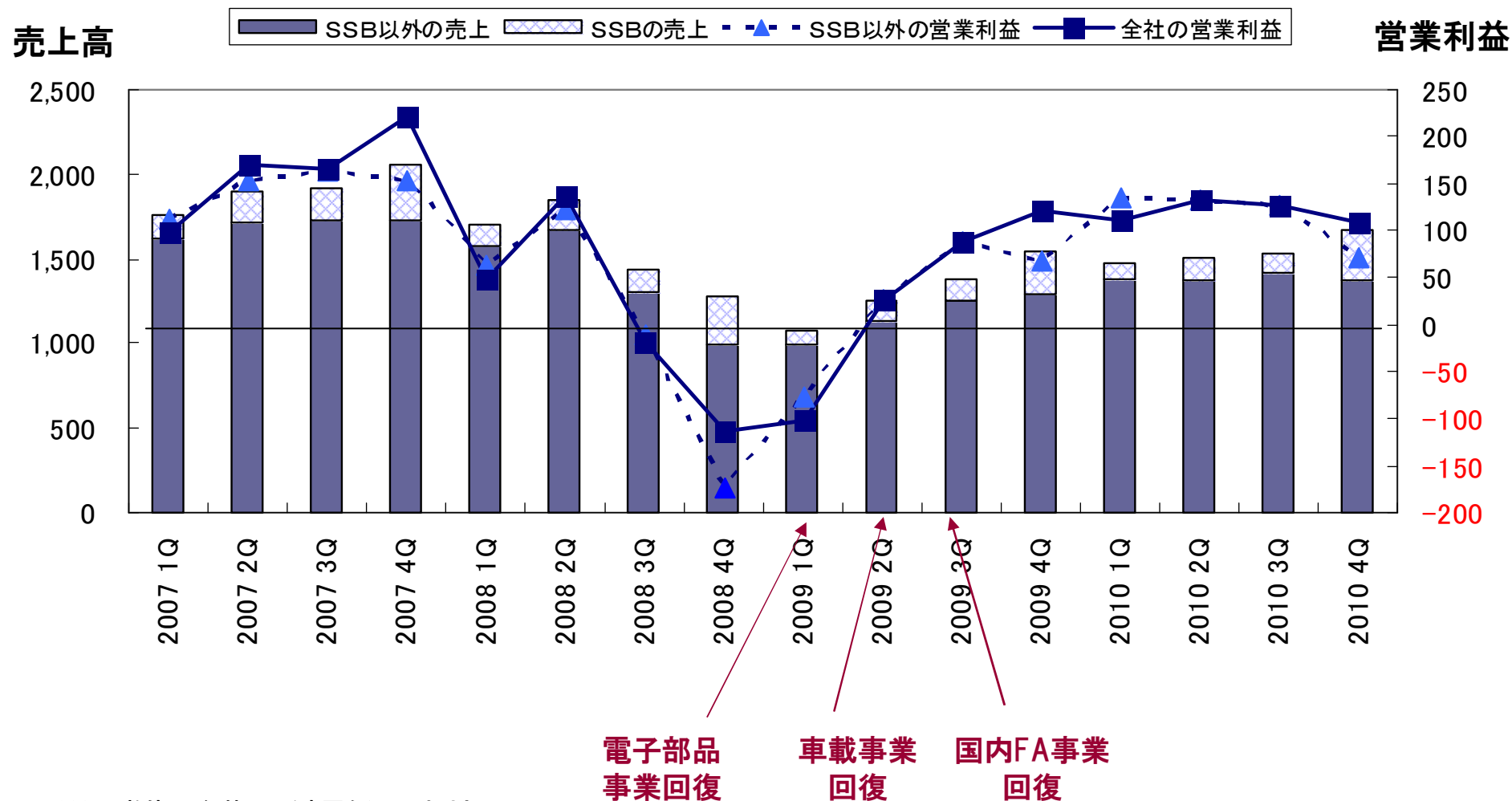
(億円)

	2011年3月期 1Q実績	2012年3月期 1Q見通し	前年同期比
売上高	1,470	1,450	△1.3%

※第1四半期の為替レート前提 USD・・・83円、EUR・・・117円 (前年同期実績 USD・・・91.5円、EUR・・・116.9円)

全社 / 売上高・営業利益推移

(億円)



※FY2007の数値は、組替による変更を行っておりません

当期決算と来期見通しのポイント P.5

2011年3月期決算報告 P.7

東日本大震災の影響と2012年3月期の見通し P.30

ご参考資料 P.37

- 売上高と営業利益は、ほぼ前回見通し通りで推移。景気回復を受けて前期を大きく上回る
- 当期純利益は、株式減損と品質対応費用などの営業外費用が増加し前回見通しを下回る

全社PL	2010/3期	2011/3期	前期比・差	(億円)	
				前回見通し (2011年1月28日)	前回見通し 比・差
売上高	5,247	6,178	+17.7%	6,200	△0.4%
売上総利益	1,843	2,317	+25.7%	2,340	△1.0%
販管費	1,334	1,424	+6.7%	1,430	△0.4%
R&D費	378	413	+9.1%	420	△1.7%
営業利益	131	480	+267.4%	490	△2.0%
営業外費用	29	63	+120.4%	35	+81.3%
税引前当期純利益	102	417	+309.0%	455	△8.4%
当期純利益	35	268	+661.3%	300	△10.7%
ROE (%)	1.2	8.7	+7.5P	9.6	△ 0.9P
EPS (円)	15.98	121.66	+105.68	136.28	△ 14.6
			前期差		前回見通し差
USDレート (円)	92.9	85.8	△ 7.1	86.0	△ 0.2
EURレート (円)	130.3	113.5	△ 16.8	113.1	+0.4

セグメント別の売上高

- 各セグメントとも、ほぼ前回見通し通りに推移
- 前期比では、主力の制御3事業(IAB・EMC・AEC)で大幅に回復

(億円)

セグメント別	2010/3期	2011/3期	前期比	前回見通し (2011年1月28日)	前回見通し比
工場自動化用制御機器事業 (IAB)	2,039	2,719	+33.3%	2,700	+0.7%
家電・通信用電子部品事業 (EMC)	707	812	+14.8%	810	+0.3%
自動車用電子部品事業 (AEC)	752	843	+12.1%	855	△1.5%
社会システム事業 (SSB)	580	638	+10.1%	665	△4.0%
健康・医療機器事業 (HCB)	634	606	△4.3%	610	△0.6%
その他	436	497	+13.9%	500	△0.7%
消去調整他	99	63	△36.7%	60	+5.2%
合計	5,247	6,178	+17.7%	6,200	△0.4%

※IAB、その他事業セグメントは新組織区分に組替えて表示しています

セグメント別の営業利益

- 自動車用電子部品事業(AEC)を除き、ほぼ前回見通し通りに推移
- 前期比では、主力の制御3事業(IAB・EMC・AEC)で大幅に回復

(億円)

セグメント別	2010/3期	2011/3期	前期比	前回見通し (2011年1月28日)	前回見通し比
工場自動化用制御機器事業 (IAB)	127	382	+201.2%	385	△0.7%
家電・通信用電子部品事業 (EMC)	67	119	+76.8%	125	△4.7%
自動車用電子部品事業 (AEC)	17	42	+140.4%	50	△16.8%
社会システム事業 (SSB)	27	17	△37.7%	17	△2.8%
健康・医療機器事業 (HCB)	71	41	△42.2%	43	△5.2%
その他	△ 58	△ 47	△20.0%	△ 45	+3.5%
消去調整他	△ 120	△ 73	△38.7%	△ 85	△13.7%
合計	131	480	+267.4%	490	△2.0%

※IAB、その他事業セグメントは新組織区分に組替えて表示しています

▶ 全社では約21億円のマイナスとなり、震災の影響は軽微にとどまる

	2011年3月期への影響	
	売上影響	要因など
工場自動化用制御機器事業 (IAB)	—	—
家電・通信用電子部品事業 (EMC)	—	—
自動車用電子部品事業 (AEC)	△約10億円	一部製品の生産停止など
社会システム事業 (SSB)	△約7億円	東北・北関東エリアでの交通機器売上減少など
健康・医療機器事業 (HCB)	△約4億円	東北・北関東エリアでの健康機器の売上減少など
その他	—	—
合計	△約21億円	

売上高、営業利益(所在地別)

- 前期比で国内の売上、営業利益が大幅に回復
- 海外でも各地域で売上高が回復し、営業利益も回復
- 特に中華圏の売上高・利益は海外において他地域を抜き、最も大きな額となる

(億円)

所在地別	売上高			営業利益		
	2010/3期	2011/3期	前期比	2010/3期	2011/3期	前期比
国内	2,691	3,119	+15.9%	115	298	+158.4%
北米	612	744	+21.7%	△5	28	-
欧州	776	845	+8.9%	19	34	+75.9%
中華圏	771	970	+25.8%	90	114	+27.0%
東南アジア他	397	500	+26.1%	35	60	+68.3%
消去又は全社	-	-	-	△124	△54	-
合計	5,247	6,178	+17.7%	131	480	+267.4%

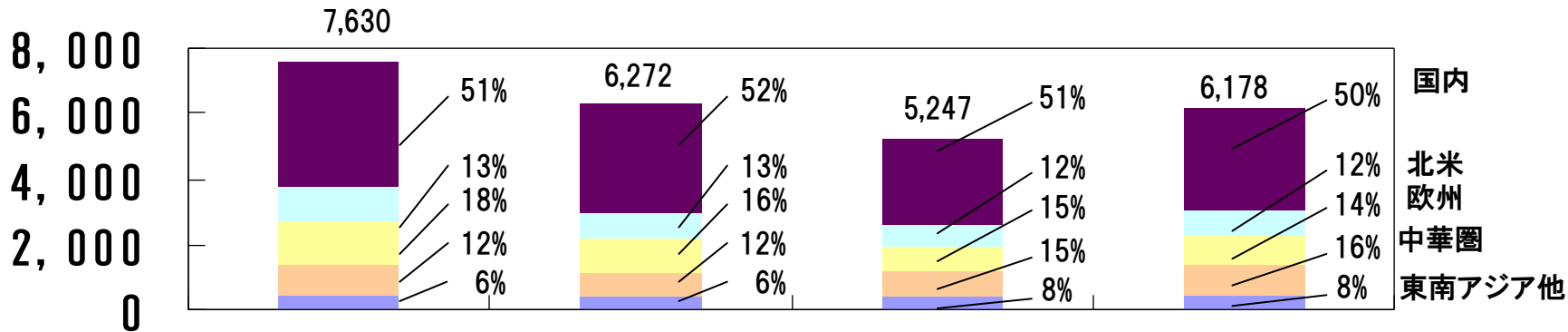
※所在地別においては、直接貿易は国内に含まれます

売上高・営業利益推移(所在地別)

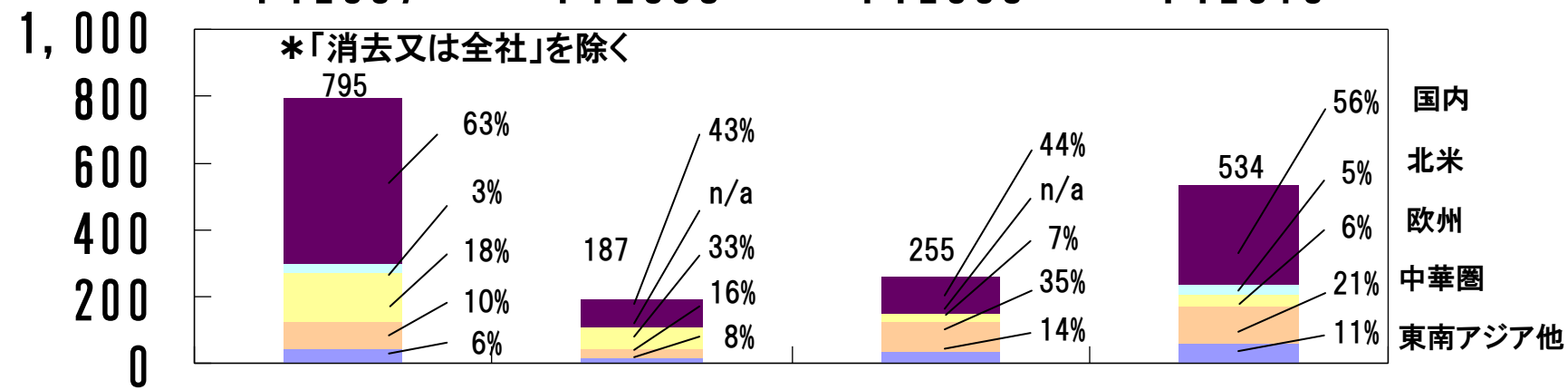
➤ 売上高は中華圏が増加。利益は国内が大幅に回復。

売上高(構成比)

(億円)



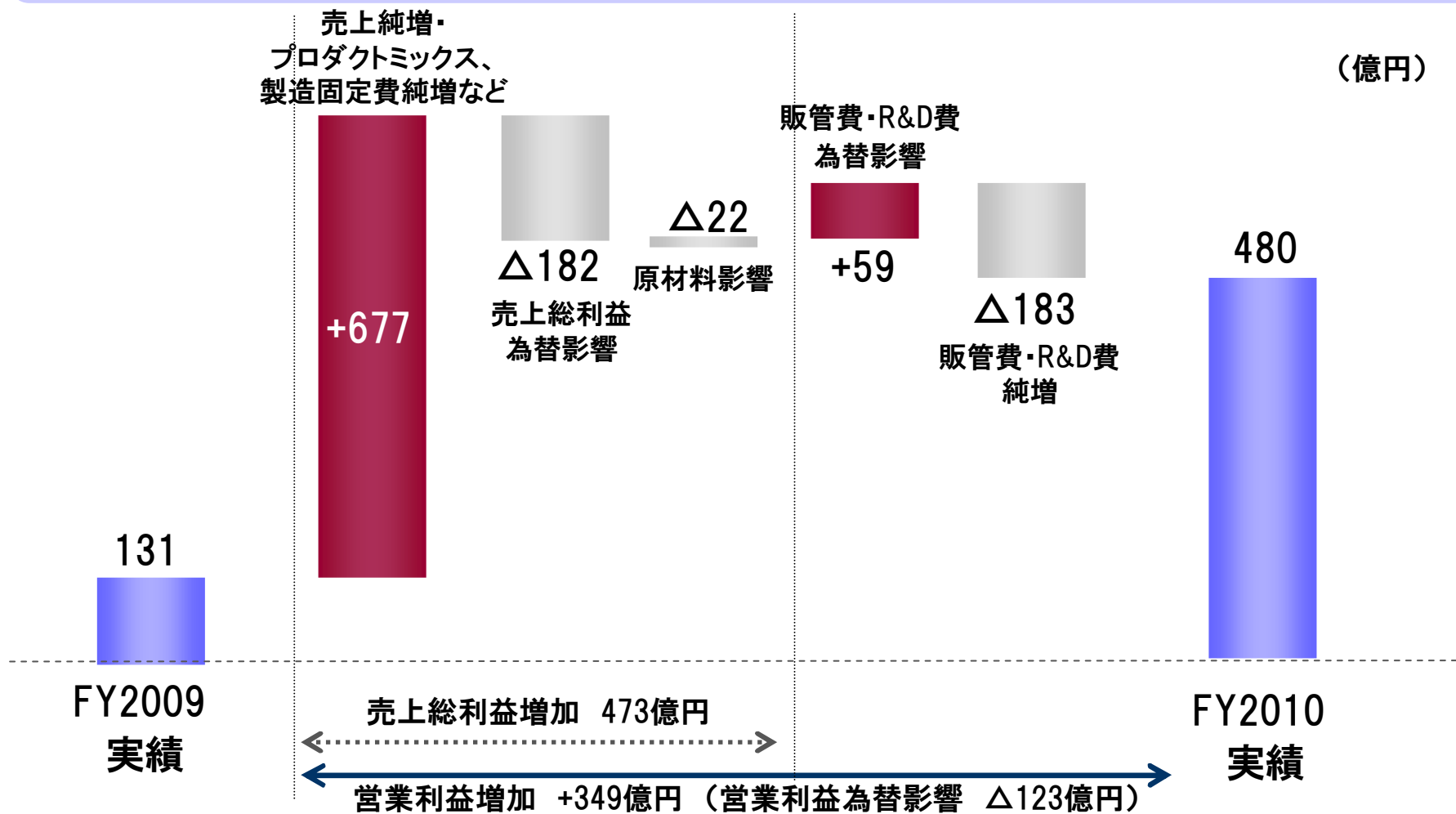
営業利益(構成比)



FY2007 FY2008 FY2009 FY2010
※FY2008とFY2009の北米はマイナスのため、計算に含まない

営業利益差異分析(前期比)

➤ 為替や原材料のマイナス影響はあるものの、売上増により利益増加



工場自動化用制御機器事業(IAB)

- 売上高、営業利益ともに前回見通し通りで推移
- 国内製造業全般の設備投資回復や新興国の旺盛な設備投資需要により好調に推移

(億円)

IAB売上高	2010/3期	2011/3期	前期比	前回見通し (2011年1月28日)	前回見通し比
国内	912	1,239	+35.9%	1,225	+1.2%
海外	1,127	1,480	+31.2%	1,475	+0.3%
北米	189	267	+41.7%	264	+1.3%
欧州	512	567	+10.7%	570	△0.5%
アジア	168	250	+48.9%	244	+2.3%
中華圏	255	388	+52.1%	390	△0.5%
直接貿易	3	7	+112.2%	7	+4.0%
合計	2,039	2,719	+33.3%	2,700	+0.7%
営業利益	127	382	+201.2%	385	△0.7%
営業利益率	6.2%	14.1%	+7.9P	14.3%	△0.2P

※新組織区分に組み替えて表示しています(ソーラーパワーコンディショナのその他セグメントへの移管)

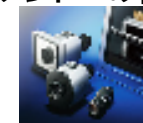
セーフティコンポーネント



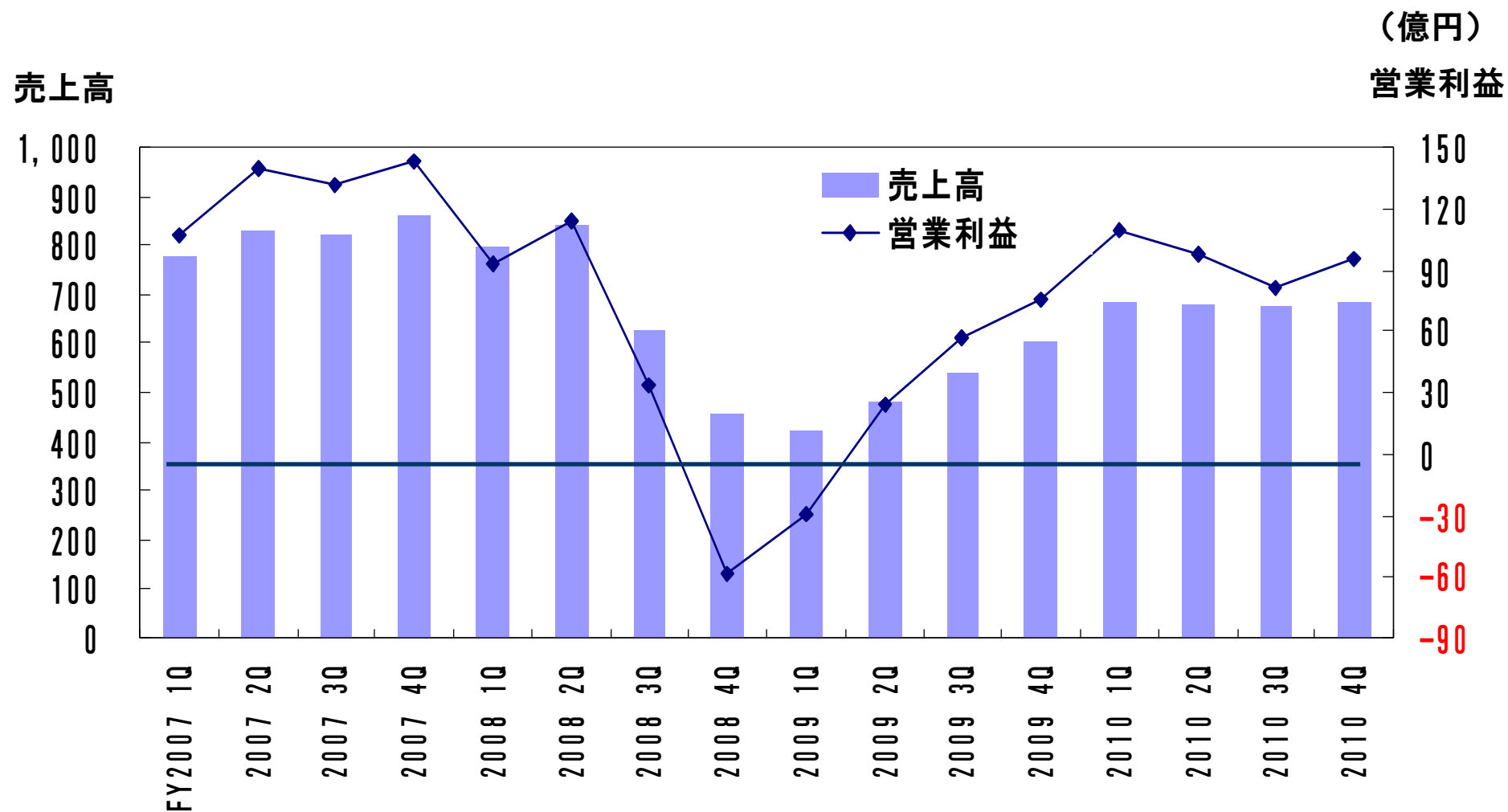
プログラマブルコントローラ



視覚センサ



工場自動化用制御機器事業(IAB) / 売上高・営業利益推移



※・FY2007の数値は、組替による変更を行っておりません(産機販売の旧EMCからの移管)
 ・FY2009より新組織区分に組み替えて表示しています(ソーラーパワーコンディショナのその他セグメントへの移管)

家電・通信用電子部品事業(EMC)

- 売上高は、国内外ともにほぼ前回見通し通りで推移
- 営業利益は、原材料高騰などの影響により前回見通しを下回る
- 家電・車載・産機向けのリレーを中心に好調に推移

EMC売上高	2010/3期	2011/3期	前期比	(億円)	
				前回見通し (2011年1月28日)	前回見通し比
国内	* 223	249	+11.5%	245	+1.7%
海外	484	563	+16.4%	565	△0.4%
北米	* 73	137	+88.0%	140	△2.5%
欧州	117	130	+10.5%	130	△0.1%
アジア	76	84	+10.3%	85	△1.0%
中華圏	198	198	△0.2%	195	+1.3%
直接貿易	19	15	△23.4%	15	△1.5%
合計	707	812	+14.8%	810	+0.3%
営業利益	67	119	+76.8%	125	△4.7%
営業利益率	9.5%	14.7%	+5.2P	15.4%	△0.7P

* 2011/3月期より国内・北米のリレー事業をAECより移管



リレー

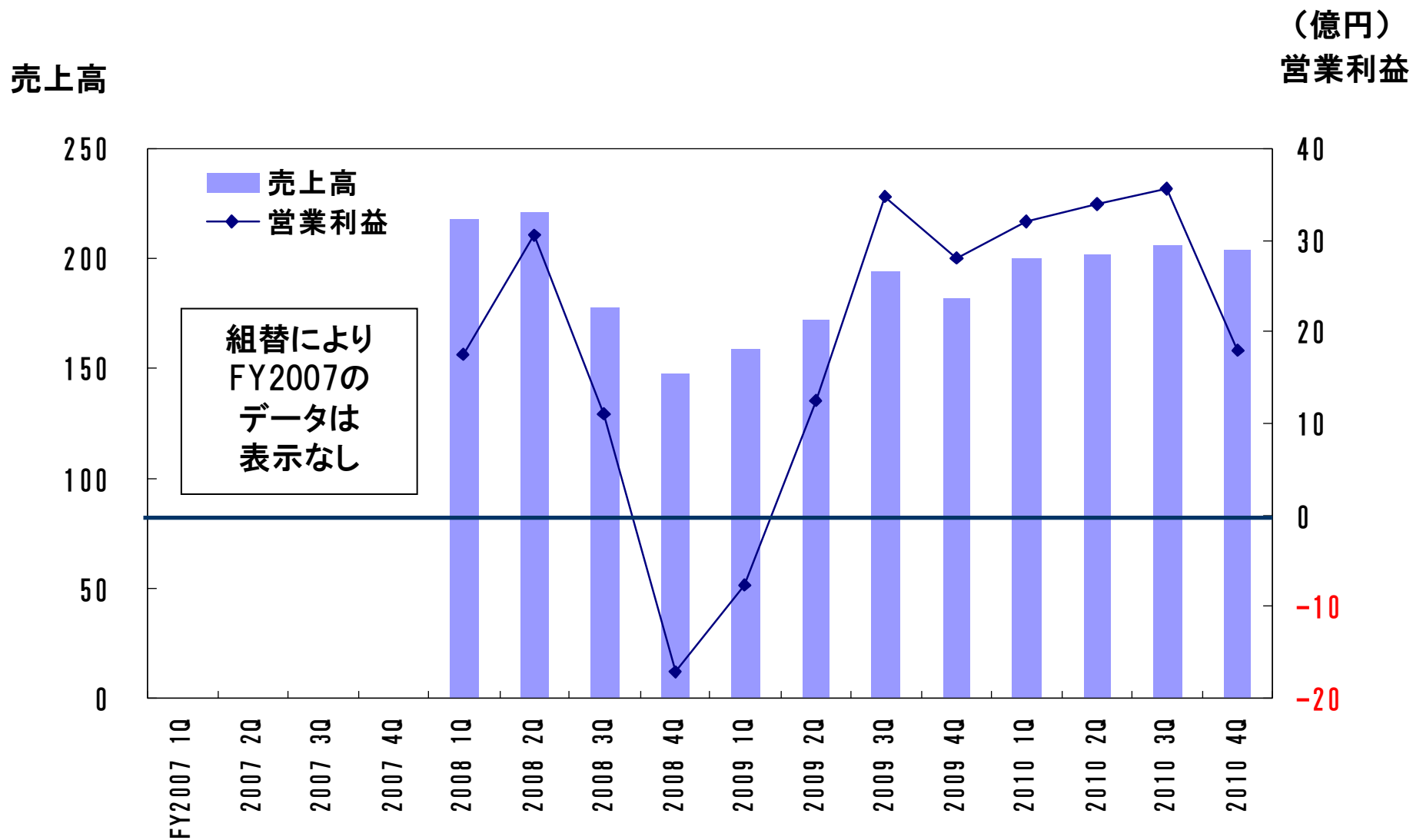


マイクロスイッチ



FPCコネクタ

家電・通信用電子部品事業(EMC) / 売上高・営業利益推移



※・FY2009以降、車載のリレー事業(欧州)をAECから移管
 ・FY2010以降、車載のリレー事業(国内・北米)をAECから移管

自動車用電子部品事業(AEC)

- 震災の影響を受け、売上高・営業利益ともに前回見通しを下回る
- 国内外の順調な自動車生産を受けて、売上高は好調に推移
- 経営の効率運営で黒字化は定着

(億円)

AEC売上高	2010/3期	2011/3期	前期比	前回見通し (2011年1月28日)	前回見通し比
国内	* 239	284	+18.8%	295	△3.8%
海外	513	559	+9.0%	560	△0.2%
北米	* 240	239	△0.6%	240	△0.6%
欧州	20	26	+27.3%	25	+2.3%
アジア	131	142	+8.4%	140	+1.3%
中華圏	63	91	+45.1%	90	+1.1%
直接貿易	59	62	+4.8%	65	△4.8%
合計	752	843	+12.1%	855	△1.5%
営業利益	17	42	+140.4%	50	△16.8%
営業利益率	2.3%	4.9%	+2.6P	5.8%	△0.9P

*2011/3期より国内・北米のリレー事業をEMCへ移管

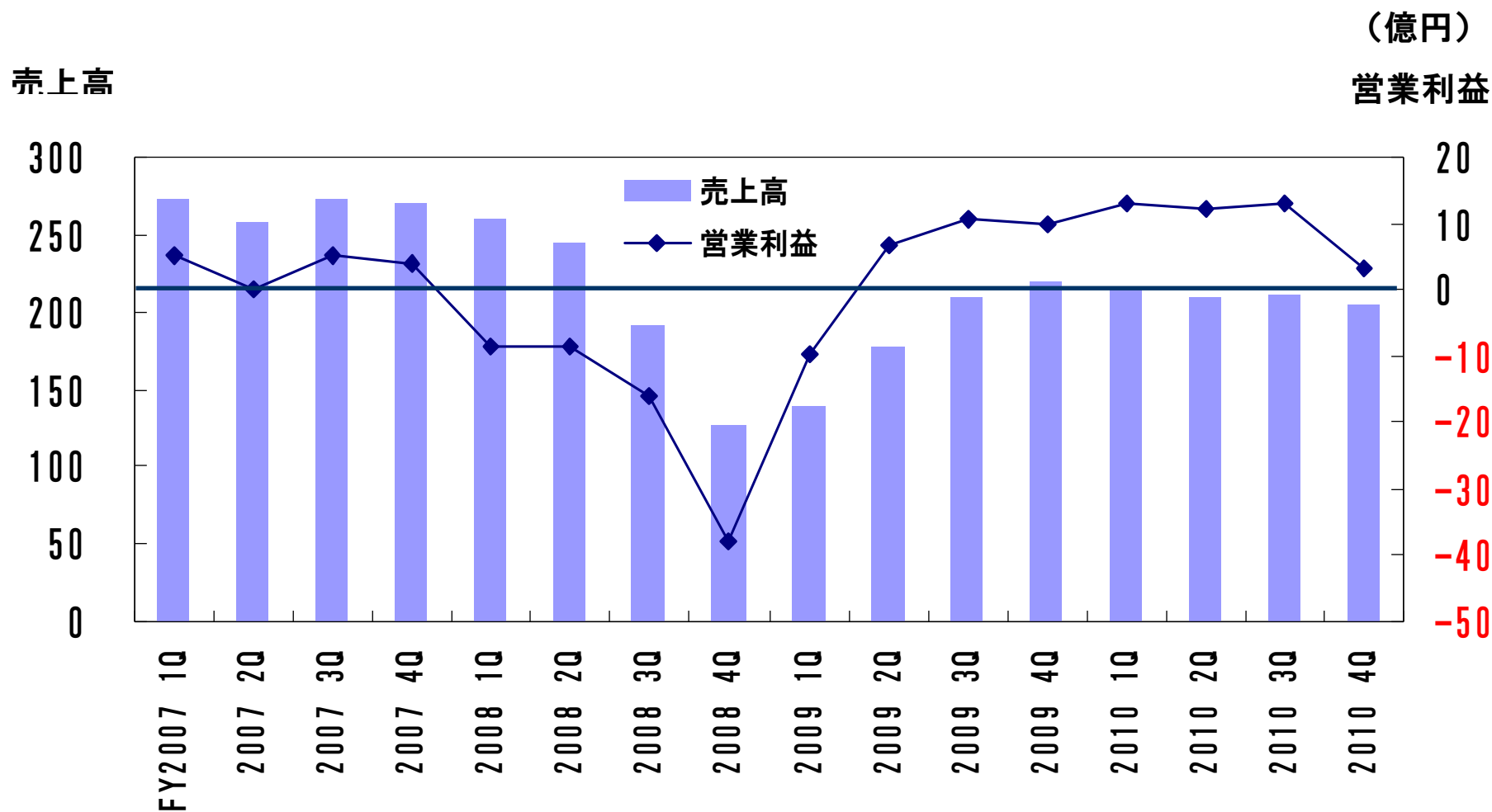


パッシブエントリーシステム



電動パワーステアリング
コントローラ

自動車用電子部品事業(AEC) / 売上高・営業利益推移



※・FY2009以降、車載のリレー事業(欧州)をEMCへ移管
 ・FY2010以降、車載のリレー事業(国内・北米)をEMCへ移管

社会システム事業(SSB)

- 売上高は、震災の影響などにより、前回見通しを下回る
- 営業利益は、経費の削減などにより、ほぼ前回見通し通り

(億円)

SSB売上高	2010/3期	2011/3期	前期比	前回見通し (2011年1月28日)	前回見通し比
国内	575	631	+9.8%	655	△3.6%
海外	5	7	+49.8%	10	△29.6%
北米	0	0	-	0	-
欧州	0	0	-	0	-
アジア	0	0	-	0	-
中華圏	0	0	-	0	-
直接貿易	5	7	+49.8%	10	△29.6%
合計	580	638	+10.1%	665	△4.0%
営業利益	27	17	△37.7%	17	△2.8%
営業利益率	4.6%	2.6%	△2.0P	2.6%	0.0P

自動改札機



交通管制システム

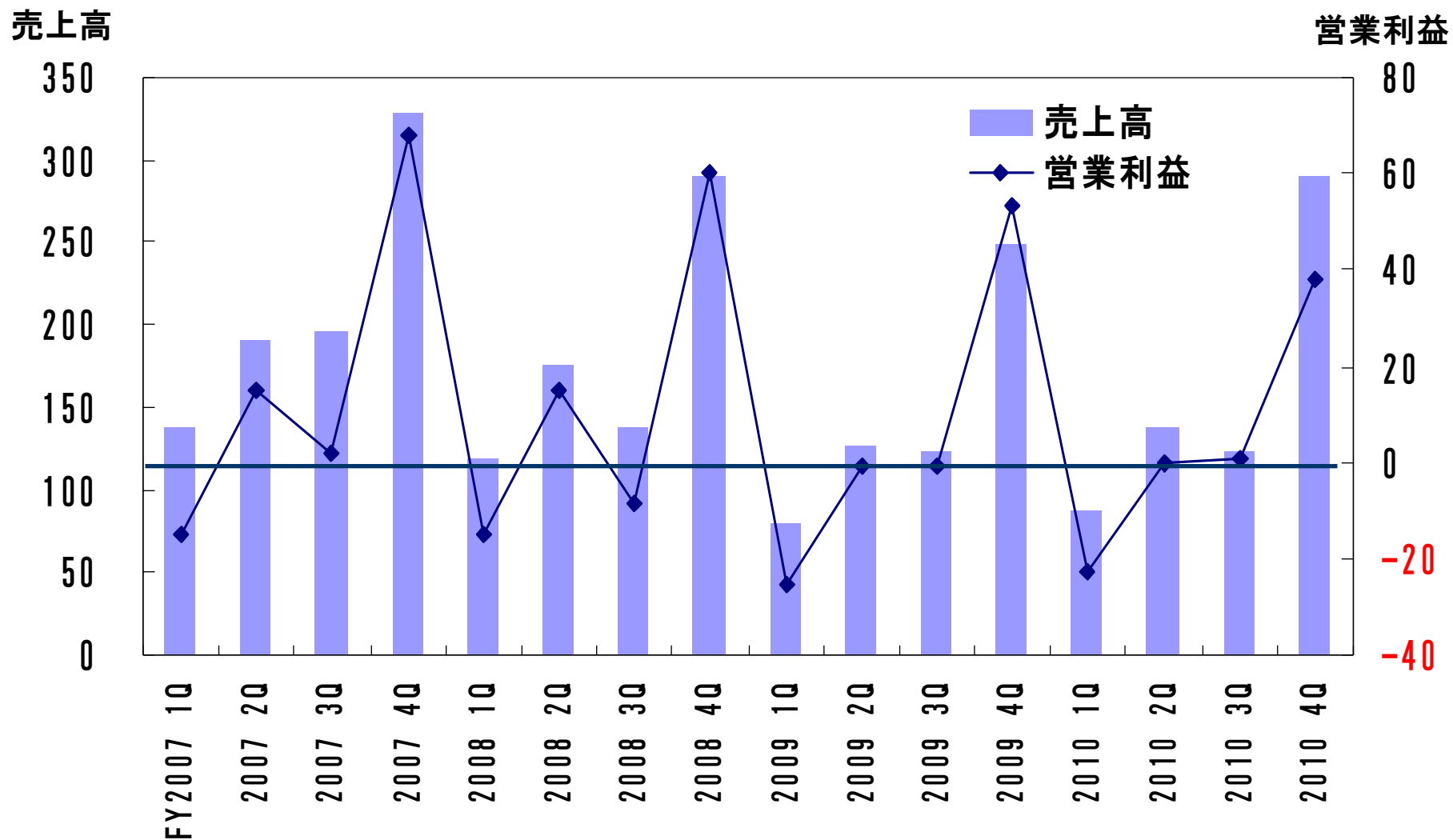


セキュリティシステム



社会システム事業(SSB) / 売上高・営業利益推移

(億円)

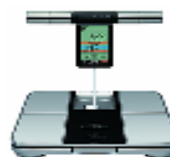


- 売上高・営業利益は、ほぼ前回見通し通りに推移
- 前期比では、国内市場の消費低迷により苦戦するも、ロシアなどの新興国の健康管理意識の高まりにより、海外の売上は好調に推移(為替影響により円換算では前期並み)

(億円)

HCB売上高	2010/3期	2011/3期	前期比	前回見通し (2011年1月28日)	前回見通し比
国内	296	269	△9.0%	275	△2.1%
海外	338	337	△0.2%	335	+0.6%
北米	108	102	△5.3%	100	+1.8%
欧州	127	122	△3.4%	122	+0.4%
アジア	23	25	+9.3%	25	△0.1%
中華圏	74	80	+8.0%	80	△0.3%
直接貿易	7	8	+19.6%	8	+1.3%
合計	634	606	△4.3%	610	△0.6%
営業利益	71	41	△42.2%	43	△5.2%
営業利益率	11.1%	6.7%	△4.4P	7.0%	△0.3P

デジタル自動血圧計

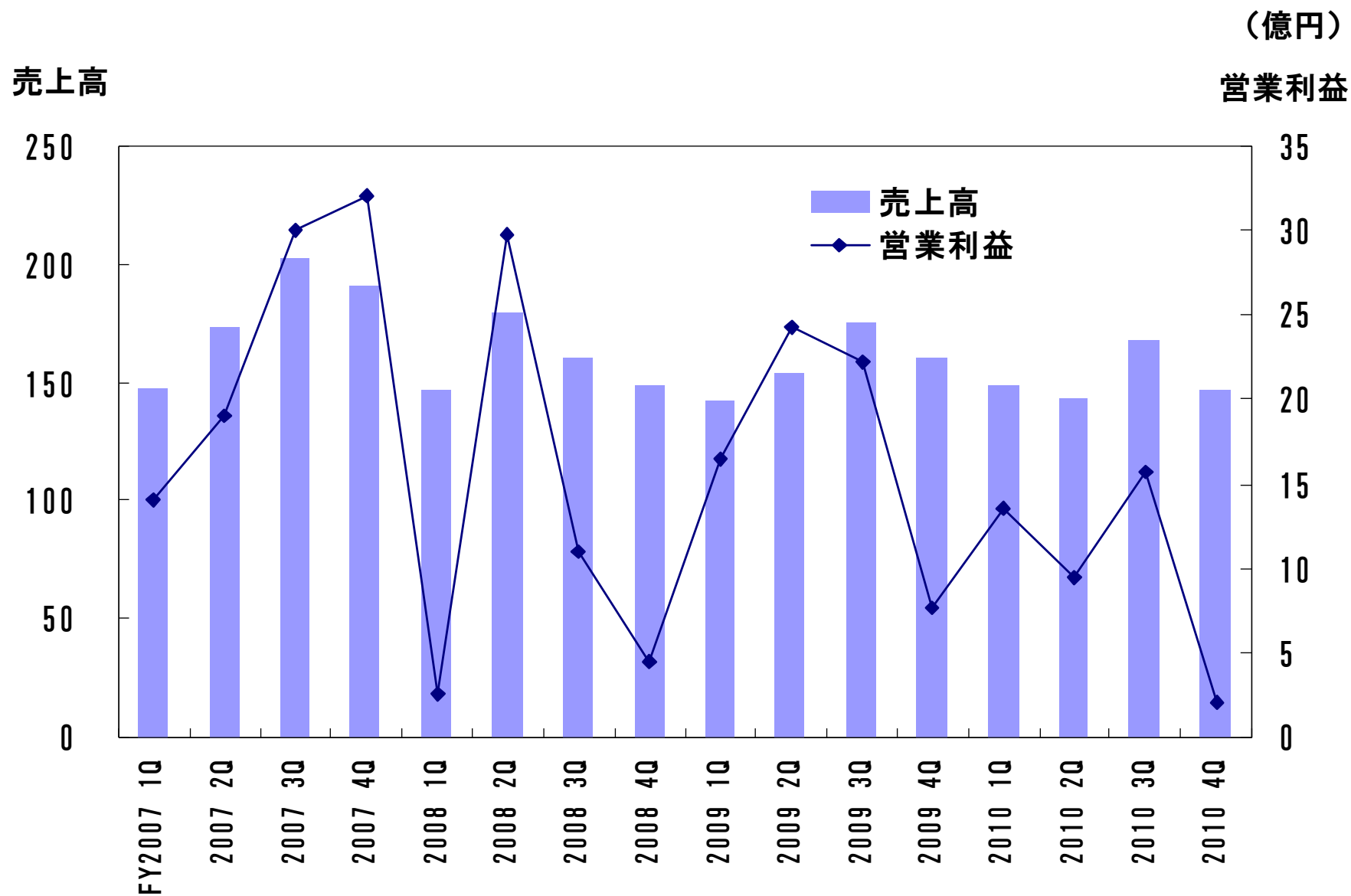


体重体組成計



血圧脈波検査装置

健康・医療機器事業(HCB) / 売上高・営業利益推移



➤ 売上高・営業利益は、ほぼ前回見通し通りに推移

その他売上高	(億円)				
	2010/3期	2011/3期	前期比	前回見通し (2011年1月28日)	前回見通し比
国内	247	275	+11.1%	269	+2.1%
海外	189	222	+17.7%	231	△3.8%
北米	0	0	-	0	-
欧州	0	0	-	0	-
アジア	0	0	-	0	-
中華圏	175	207	+18.1%	215	△3.7%
直接貿易	13	15	+11.9%	16	△5.9%
合計	436	497	+13.9%	500	△0.7%
営業利益	△ 58	△ 47	-	△ 45	-
営業利益率	-	-	-	-	-

※新組織区分に組み替えて表示しています(ソーラーパワーコンディショナのIABセグメントからの移管)



小型液晶用バックライト



MEMSアコースティックセンサ



e-watching



PCボード

その他事業 事業別売上高

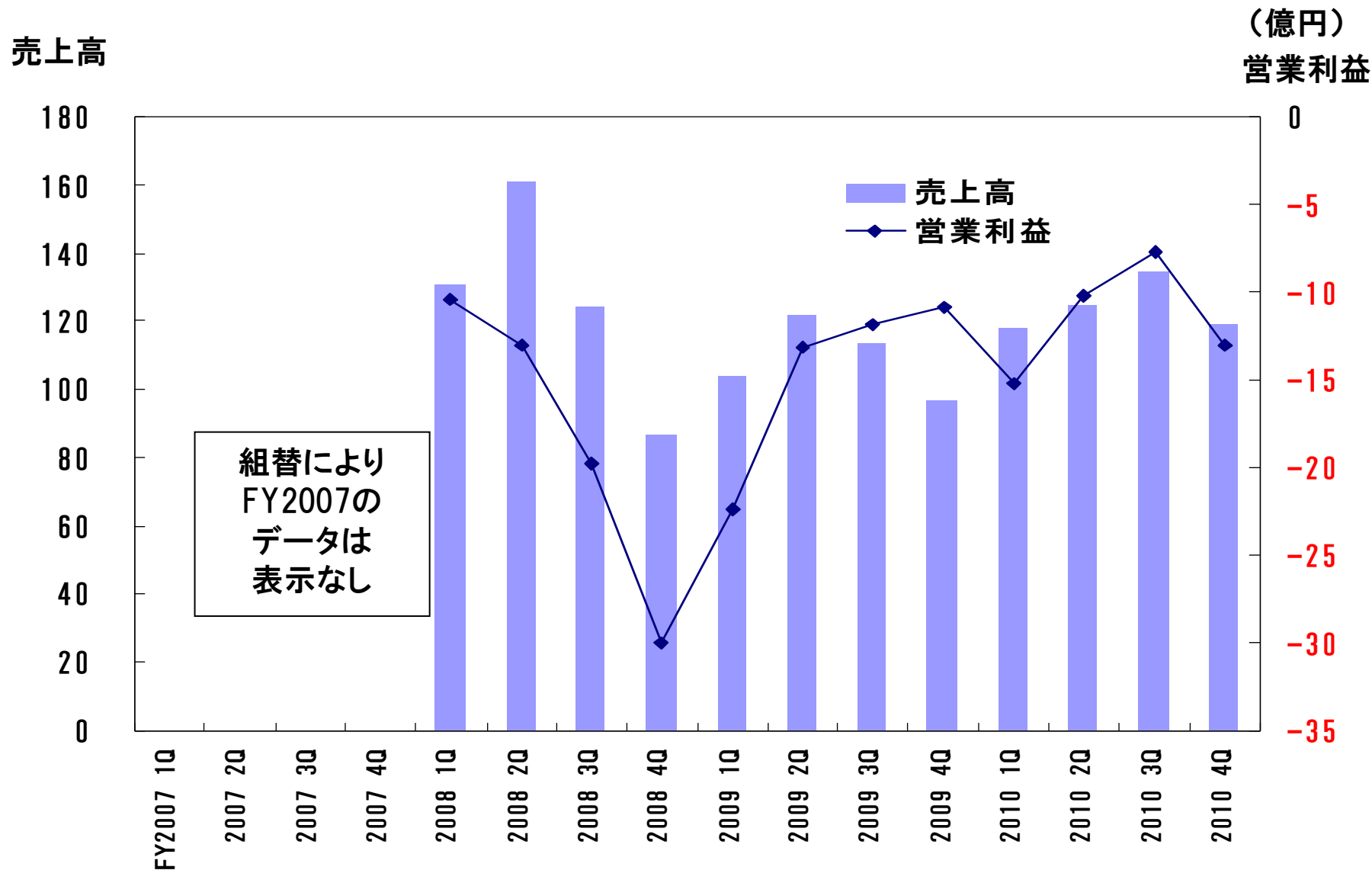
- バックライト事業は、海外でのスマートフォン市場拡大による需要増により堅調に推移
- マイクロデバイス事業は、半導体生産受託の一部需要減などにより売上は前期比で減少
- 環境事業は、ソーラーパワーコンディショナなどが好調に推移

(億円)

その他売上高	2010/3期	2011/3期	前期比
バックライト事業(OPT)	318	337	+6.1%
マイクロデバイス事業(MD)	24	22	△8.7%
小計	342	359	+5.1%
環境事業・電子機器事業	94	138	+46.2%
合計	436	497	+13.9%

※新組織区分に組み替えて表示しています(ソーラーパワーコンディショナのIABセグメントから環境事業への移管)

その他 / 売上高・営業利益推移



※新組織区分に組み替えて表示しています(ソーラーパワーコンディショナのIABセグメントからの移管)

連結貸借対照表

- 震災による資金需要増加に備え、借入金と現預金が増加
- 自己資本比率は円高の影響を受け、前期末の57.5%から55.6%に1.9ポイント低下

連結B/S	2010年3月期	2011年3月期	(億円)
資産の部	5,323	5,628	
現預金	517	747	
売上債権	1,237	1,353	
在庫	777	862	
繰延税金、その他流動資産	327	317	
固定資産	1,230	1,200	
投資その他資産	1,235	1,149	
負債の部	2,251	2,491	
短期借入金	369	458	
長期借入金	13	8	
支払い手形及び買掛金等	689	778	
退職給付引当金	670	655	
その他負債	510	592	
純資産の部	3,071	3,137	
資本金・その他剰余金等	4,034	4,236	
その他包括利益(損失)累計額	△526	△662	
自己株式	△445	△446	
非支配持分	8	9	
負債及び純資産合計	5,323	5,628	

▶ たな卸資産の増加による営業CFの減少と設備投資の増加により、フリーキャッシュフローは前期を下回る

(億円)

連結CF	2010年3月期	2011年3月期
営業活動によるキャッシュフロー	428	420
投資活動によるキャッシュフロー	△186	△202
FCF	242	218
財務活動によるキャッシュフロー	△204	33
換算レート変動の影響	13	△21
現金及び現金同等物の増減額	51	230
四半期末の現金残高	517	747
設備投資	195	232
減価償却費	270	230

当期決算と来期見通しのポイント	P.5
2011年3月期決算報告	P.7
東日本大震災の影響と2012年3月期の見通し	P.30
ご参考資料	P.37

被災状況、および、現時点の生産稼働状況(4月26日時点)

- 国内の全17生産拠点にて、人的被害や物的被害はなし
- 国内の2拠点で一部生産停止はあるが、他の拠点では通常通りの生産を実行中

<国内生産拠点>

会社名	生産拠点	被害状況	稼働状況
オムロンレーザフロント	本社(神奈川県)	被害なし	○
オムロン	草津事業所、綾部事業所、野洲事業所	被害なし	○
オムロン飯田	本社(長野県)	被害なし	※1
オムロン直方	本社(福岡県)	被害なし	○
オムロン スイッチアンドデバイス	本社(岡山県)、倉吉事業所、出雲事業所	被害なし	○
オムロン アミューズメント	本社(愛知県)	被害なし	○
オムロン リレーアンドデバイス	本社(熊本県)、武雄事業所	被害なし	○
オムロン 山陽	本社(岡山県)	被害なし	○
オムロン 松阪	本社(三重県)	被害なし	○
オムロン 阿蘇	本社(熊本県)	被害なし	※2
オムロン 太陽	本社(大分県)	被害なし	○
オムロン 京都太陽	本社(京都府)	被害なし	○

※1 車載電装部品の一部の生産を停止

※2 環境関連機器の一部の生産を停止

セグメント別の需要・部材調達見通し

▶ 需要面では各セグメントごとに需要の増減を想定するも、通期での見通しは不透明な状況
 ▶ 調達面では第1四半期の部材は確保できたが、第2四半期以降はリスクが残る

需要	IAB	海外：震災の影響はなく、拡大基調が継続 国内：震災の影響により需要増加は見られるが、供給逼迫を見た前倒し需要の可能性もあり、需要増の継続には不透明さがある
	EMC	海外：震災の影響はなく、拡大基調が継続 国内：民生分野で一時的な需要減少が見られる
	AEC	国内、海外とも顧客の生産計画が不透明な状況
	SSB	東日本における震災の影響が大きく、需要の減少が懸念される
	HCB	海外：震災の影響はなく、新興国での拡大基調が継続 国内：東日本における震災影響が大きく、需要の減少が懸念される
	その他	省電力化にむけた環境関連機器の需要は増加
調達	セグメント共通	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>← 第1四半期 →</p> <p>部材の確保により生産は通常通り実施できる見通し</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>← 第2四半期以降 →</p> <p>旺盛な需要に応えるための調達リスクが残る</p> </div> </div>

- ✓第1四半期については部材在庫の活用などにより、需要への対応に目処が付き、売上高の算出が可能となりました
- ✓しかしながら、第2四半期以降の需要、調達状況が不透明なため、現時点での第2四半期以降の業績見通しの算出は困難な状況です
- ✓そのため、第1四半期の売上高のみという例外的ではありますが、直近の状況を正しくお伝えするために公表することと致しました
- ✓上期(第2四半期累計期間)、通期の業績につきましては、6月中旬を目処に開示致します

2012年3月期、第1四半期の売上見通し

- ▶ 全社では震災影響による需要減や為替影響もあり、前年同期比1.3%の減少を見込む
- ▶ IABは前年同期比約10%の増加を見込むも、他のセグメントはいずれも減少を見込む

セグメント別		2011/3期 1Q	2012/3期 1Q	前年同期比 (億円)
合 計	国 内	664	610	△8.1%
	海 外	806	840	+4.3%
	計	1,470	1,450	△1.3%
工場自動化用制御機器事業 (IAB)	国 内	305	320	+4.7%
	海 外	378	435	+15.0%
	計	683	755	+10.4%
家電・通信用電子部品事業 (EMC)	国 内	57	45	△20.9%
	海 外	143	150	+4.7%
	計	200	195	△2.6%
自動車用電子部品事業 (AEC)	国 内	69	45	△34.8%
	海 外	147	110	△25.3%
	計	216	155	△28.3%
社会システム事業 (SSB)	国 内	87	80	△7.7%
	海 外	0	0	△65.0%
	計	87	80	△7.8%
健康・医療機器事業 (HCB)	国 内	62	50	△19.4%
	海 外	86	85	△1.6%
	計	148	135	△9.0%
その他	国 内	70	55	△20.9%
	海 外	49	60	+23.3%
	計	119	115	△2.7%
消去調整他	国 内	14	15	+4.8%
	海 外	3	0	△71.6%
	計	17	15	△3.4%

※第1四半期の為替レート前提
USD・・・83円、EUR・・・117円
(前年同期実績 USD・・・91.5円、EUR・・・116.9円)

- 震災後の日本経済復興に寄与すべく、供給責任を果たすことを最優先とし、さらに、中長期の業績回復と収益を伴った成長を目指し、3つの施策を実行
- 震災による影響を最小限に抑え、次期中長期経営構想を早期にスタートさせる

震災により
追加した施策

供給責任を果たすための部材調達力強化

- 最適な部材調達と柔軟な生産の実行(全社調達PJ)
- 主力事業(IAB、EMC)の供給力確保

継続して
加速する施策

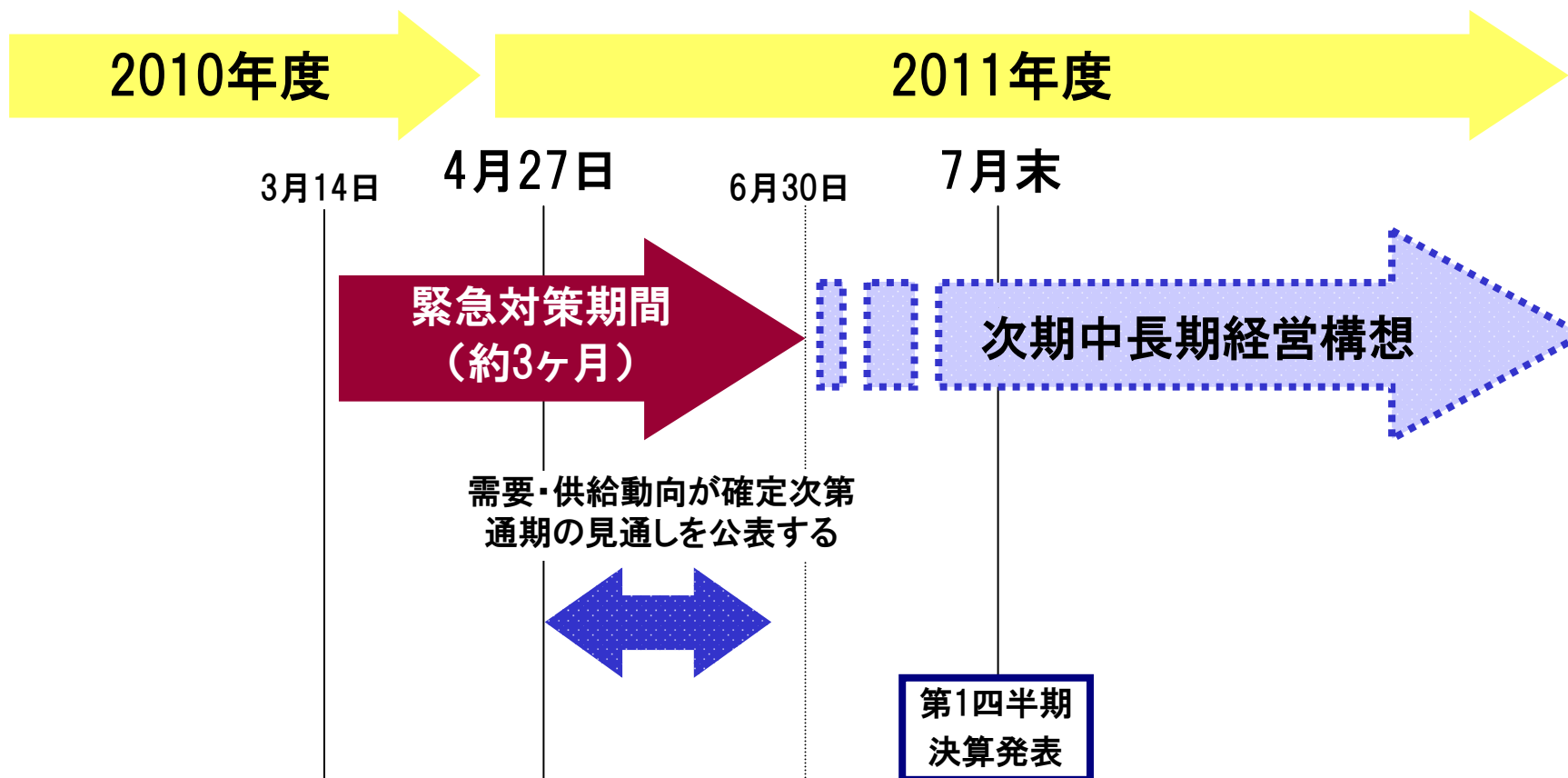
グローバルビジネスの拡大

- 新興国の積極的な開拓

構造改革の加速

- 部品の標準化、共通化、プラットフォーム化
- プロダクトミックスの改善
- 設計変更、部材のグローバル調達の加速

- 6月までの約3ヶ月を緊急対策期間としてお客様への製品供給を最優先
- 6月中旬を目処に、2012年3月期(2011年度)の見通しを公表する

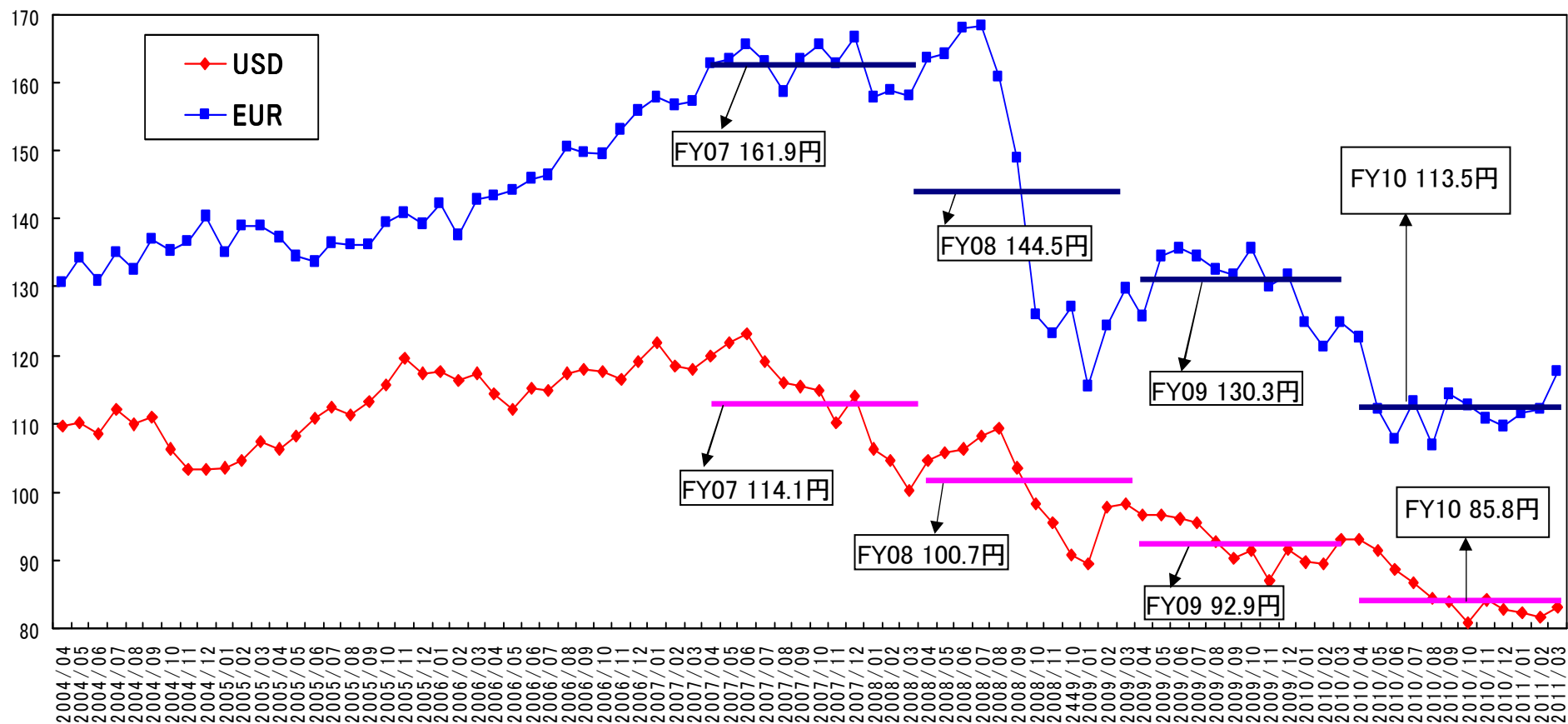


当期決算と来期見通しのポイント	P.5
2011年3月期決算報告	P.7
東日本大震災の影響と2012年3月期の見通し	P.30
ご参考資料	P.37

為替レートの推移(ドル、ユーロ)

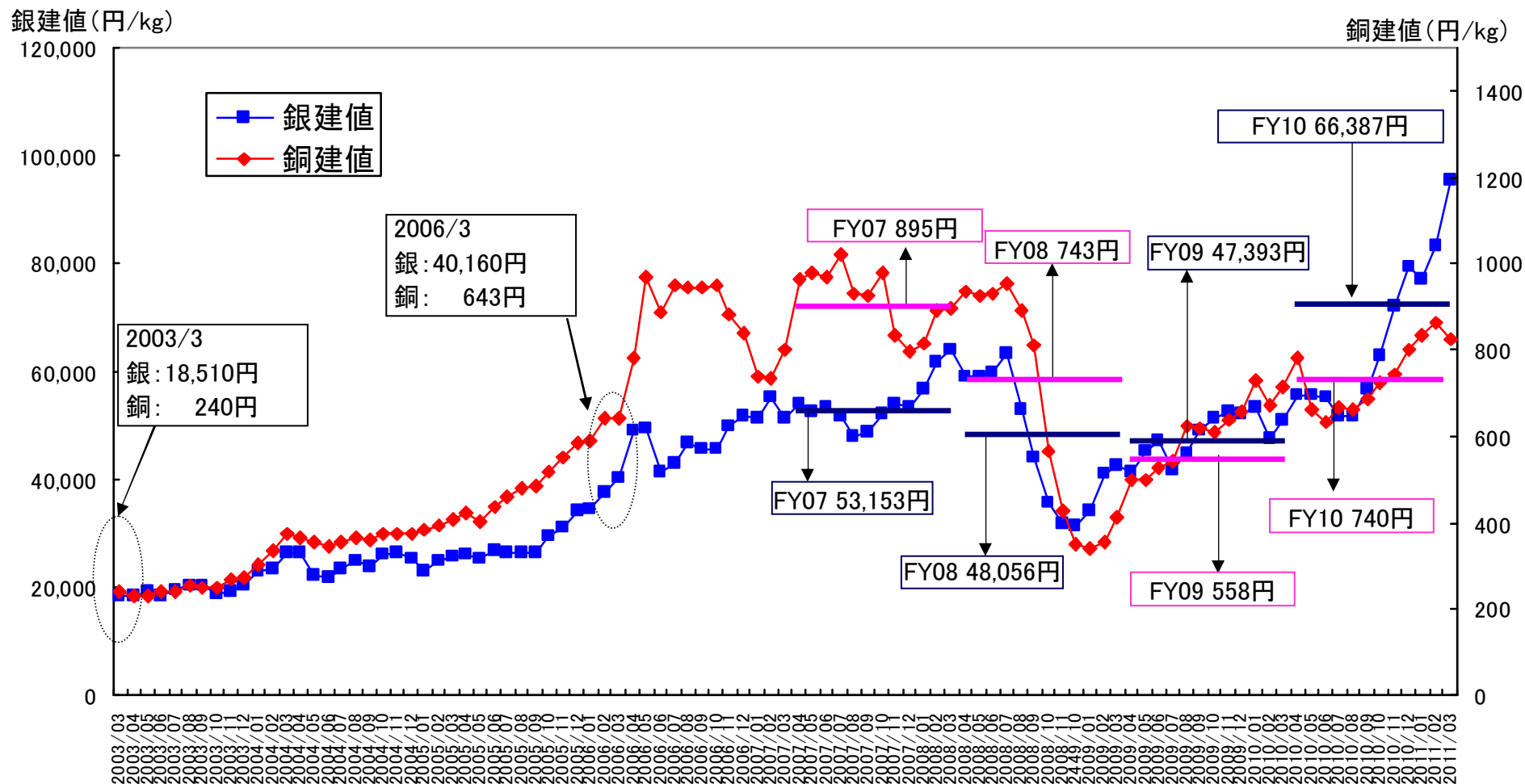
➤ドル・ユーロとも2010年度は円高で推移

USD/EUR
(円)



原材料価格の推移

➤ 2010年度の建値は、銀・銅ともに前年度比上昇



※グラフ中の数値は、期中の建値の単純平均値

センシング&コントロール技術で 「安心をカタチに」



＜お問い合わせ＞

オムロン株式会社

経営IR室 経営IR部

電話 : 03-6718-3421

E-mail : omron_ir@omron.co.jp

HPアドレス : www.omron.co.jp